

9 研究の成果と課題

今回の研究実践では、「新たな価値を創造する力」の育成に向けて、「目的意識」を高めるために、「大野農業高校の高校生を附属レストランに招待しよう」という単元を構成した。単元では、ゴールに向かって学習計画を立てる中で、大野農業高校の高校生との英語交流学習を行った。「自分の考えや思いを伝える相手がいることで、相手意識をもってコミュニケーションを図ろうとする意欲が向上し、外国語をつかって会話を行うことができたという達成感を感じられるのではないかな」という研究仮説を立て、単元の学習前と後での目的意識、特に、外国語を使ったコミュニケーション意欲や達成感の変化を検証したいと考えた。

成果は、学習活動の中で教師が子供を見取りながら、支援の必要な児童に英語表現を一緒に発音したり、めあてを確認したり、学習の成果が見られた児童に教師からの価値づけを行ったりしたことで、主体的な学びを促すことができたことである。また、実際に大野農業高校での英語をつかって買い物をしたり、自分たちが考えたおすすめメニューを高校生に紹介したりするという場面設定をしたことで、伝える相手を意識し、伝えたいという気持ちを持続しながら学習を進められ、英語を使って話したいという意欲を高めることができたことである（図1）。

単元の第4時では、大野農業高校で英語を使って買い物体験をした。直接顔を合わせて英語を使って買い物をしたことで、自分の英語が相手に伝わったという喜びや達成感を感じた子供が多かった。第9時では、zoomを通じて高校生に、自分たちが考えたおすすめメニューを紹介し、料金を伝えたり、商品を渡したりする活動を行った。オンラインでも実際に会話する相手がいることで、英語を使って相手に伝わった喜びや達成感が高まったように見えた。

本研究を通して、伝える相手がいることで、子供は学ぶ意欲を高めながら学習をすることができた。しかし、本単元を進める中で、函館おすすめメニューをもっとたくさんの人に伝えたいという思いをもったり、函館のおすすめのメニューは他にどんなものがあるのだろうと考えが広がったりしたため、それを生かしながら、誰に対して、どんな表現をすればよいのかについて考えさせる必要があった。

1回目の英語交流… zoomでの自己紹介 交流後

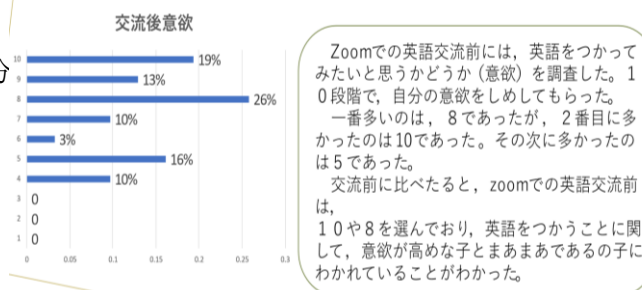


図1 交流学习後のコミュニケーション意欲

10 次年度への展望

目的意識を高めるために、場の設定や活動の保障とともに、教師と子供が目指す姿をその都度共有し、学習計画を立てていくことを大切にしたい。その結果、子供は、自分の学びを振り返り（図2）、次の目標を立てながら学ぶことで自分自身の学習を調整し、ゴールに近付いたと考える。子供が単元のゴールに向けて、自分の思いをもち、相手に伝えたいという思いが原動力となると考える。

一方的な表現ではなく、相手の思いを聞くことや、相手に分かるような伝え方を意識するためには、教師や友達との関わりの中から学んでいく必要があると考える。そのため、次年度は、ペアやグループ、全体などの他者との関わりを生かすとともに、誰に対して、どんな表現をしたいかについて、目的と照らし合わせて考えさせることを大切にしたい。また、これまでの研究の成果を生かしながら、誰にどんなことを伝えたいのかを教師と児童で共有しながら学習を進めていくことができれば、よりよい研究になると考える。

1回目のzoomでの自己紹介交流 ふりかえりの言葉 テキストマイニング



図2 振り返りに使用されたの言葉